さいたま市に点在する

長屋門を調査する

植木秀視

さいたま市緑区（元浦和市）に引っ越してきて約３０数年になります。設計事務所を東京で開設していたせいもあり、この間あまり地元のことに注意を払っていませんでした。
年齢や経費のこともあり事務所を自宅に移して仕事をすることにしました。時間の余裕が出来たこともあり、健康のこともあり散歩を心がけ、徒歩や自転車で散策をしています。
緑区は農業地帯で、１２６０haの緑地帯、田畑が広がっています。※この地域・見沼田んぼは、江戸時代に開発された見沼代用水によって利根川から水を引き、農業用水として今も活用されています。

。　見沼田んぼのMAP

こうした広い田畑があることにより、この一帯の農家は当時、比較的経済的に余裕のある生活を送っていたようで、見沼田んぼを散歩をすると、木々の間に長屋門があり、その奥に土蔵や倉、納屋、井戸に母屋、という構成になっている屋敷が多く点在しています。
数年前からこれらの民家のスケッチを重ね、古民家と長屋門の作品展を開催したりしています。

地図で長屋門を探す

古民家の屋敷に長屋門を見かけますので、どこにどのくらいあるものか知りたくなりました。
さいたま市の住宅地図やグーグルマップなどの地図上で、地域を片端からなぞってゆくと、道路に面した矩形の建物や、道路から路地が延び、奥に矩形の建物がある屋敷が見つかりました。
市にある長屋門らしき矩形のマークを数えると、１００数件に上るほどありそうです。

それらをグーグルマップの俯瞰写真で検索すると、寄棟の屋根などが確認できました。
長屋門は、古い状態で保存されているのですが、母屋は残念ながらほとんどの家で建て替えられ、古い家は見ることができない昨今となりました。

長屋門の経緯

長屋門は、武家屋敷の門として発展し、その流れから江戸時代に名主の家の門として建築されてきました。その後、百姓の中から選ばれ長屋門を持つ者も現れています。そして明治時代になり江戸時代の拘束が解禁され一般の家も競って長屋門を作り出しています。
この緑区には、おおよそ五十数軒はあるようですが、これから実数を確認をしようと思っています。

長屋門の佇まい

この地域で見かけた長屋門の姿は、武家住宅の長屋門とは違い、全体に素朴な仕上がりです。
屋根の形状は多くは寄棟形式、少数ですが入母屋形式、そして切妻形式となっています。
材料は、茅葺きの屋根を持つ建物は市の指定文化財しか見られなく、多くは瓦に葺き替えています。

茅葺きの長屋門は先の文化財以外は見当たらないのですが、カバー屋根、いわゆる金属板葺きの屋根は、茅葺きの上に金属板を葺いていますので、屋根勾配は七～九寸の急勾配で全体の構成を引き締めています。
そして、建物のほぼ中央が出入り口になっていて開き戸があり、左右の壁の上部は漆喰塗りで、通風用の窓が２～３個設けられています。下部は下見板張りで、取り外しが出来る建物もあります。

長屋門消えた（google mapより）